

バスラ日誌 (5月28日)

- 第7旅団と第20旅団のいずれが精強かについて、いろいろ比較してみているが、警衛に就いている者の態度等を見ると、もしかすると第20旅団の方が上かも知れない。また、昨日夜、人が少なくなつてから、第20旅団の廊下では壁のペンキ塗りが始まった。そんなに汚れているわけではなかったが、ペンキだらけになりながら、7〜8名の兵士がペンキの入った容器とスポンジ式のローラーを持って、どちらかと言えば楽しそうにペンキ塗りをしていた。私は、第20旅団長の予定伺いと副師団長のサマワ訪問関連を確認するため一番奥の旅団VISTの部屋に用があったのだが、ペンキを付けられないように体を縦に横にねじりながら、ようやく目的を達成して帰ってきた。通事すがりの挨拶も第20旅団の兵士の方がよく返してくれる気がする。挨拶や警衛の態度、司令部の美化など、鉄事項的なものについては後者に軍配を挙げようかと思っている。（居住区コンクリートブロックには巨大な「鉄拳」が描かれているし。）
- 作戦に関していえば、部隊交代直後とはいえ、犠牲者・負傷者を多数出したことは反省の余地があるかもしれない。しかし、[REDACTED]など当初から力を発揮していると思う。表面的なところしか見てはいるが、印象としては「鉄拳」の方が強そうだ。[REDACTED]
- 2 ズーっと前に紹介した、松野宗純先生から出国時に頂いた本の中に、禅の修行において重視されるものとして座禅のみならず作務があり、中でも食事係が特に大切な仕事であり、道元はわざわざ「典座教訓」という一書を著していると言っている。作務とは座禅以外の日常の作業であろう。また典座とは、食事係のことだそう。その「典座教訓」の中に、炊事の心得として「喜心・老心・大心」をもってその仕事に当たることが大切だと述べられているらしい。「喜心」とは与えられたその仕事に喜びと生き甲斐を見出し、心を据えて邁進すること。「老心」とは、懇切丁寧な親心を持ってその仕事にあたり全ての素材や器を慈しみの心で取り扱うこと。「大心」とは、公平無私な心の働きのことだそう。なかなかそのような境地に至ることはできないが少し反省を込めて紹介してみた。見た目は坊主なんだけど。[REDACTED]
- 3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。[REDACTED]



スミッティLO日々業務報告(5月28日)

区 分	内 容
1 警戒態勢等	変化なし: [Redacted] Threat Level [Redacted]
2 特記事項	[Redacted]
3 本日の業務	(1) 情報要求対応等 サマー市内の治安情勢、デモ関連情報、英豪軍の情勢判断等 (2) 各種業務調整等 明日以降の豪軍支援要請関連、群長・衆支隊長・政策アドバイザー等キャンパスミットイ訪問関連(1日) [Redacted] 整備関連、SWG関連、QDG依頼事項関連、QDG Administration Office関連等 (3) 各種ミーティング等 英豪軍作戦会議参加
4 明日の予定	(1) 情報要求対応等 (2) 各種業務調整等 (3) 各種ミーティング等
5 その他(備考)	明日の射撃訓練 なし